



広島三育学院 中学校・高等学校通信



中高生夏祭り(8月2日)

やまびこ  
2020

8

祈り、学び、働きつつ、献身

# 「さべつ」

アメリカ東部ペンシルベニア州、山間にある美しい大学の町にあるパブリックハイスクールは全校生徒800名、黒人1人、韓国人1人、日本人1人、あとは全員白人という構成だった。800人中3人の有色人種の一人であるということは、何をしても

しなくても、普通に登下校するだけで目立ってしまう。内気で気弱な日本人少年としては、なるべく目立たないよう生活することを心がけたが、外見が異なるということだけで嫌な言葉を投げかけられない日は少なくなかった。今考えるとあれは差別だったのではと思

えるが、当時は自分の雰囲気や周囲と違うことがいけないのだ、と何となく思っていた。あまり良い思い出ではない。

残念なことに、過去にこのような経験をしたからといって、それを教訓に差別の全く無い人になったわけでも、いつも差別されている人の気持ちを良く理解できるようになったわけでもない。気付けば人を見下すようなことを平気で考えてしまっていることがある。

「現代人ほど自意識が強いのに、自分の存在を受け入れられない世代は無い」と言われている。「こんな自分があります、皆さん見て下さい」とSNS等を通じて様々なことを発信し、それを多くの人に認めてもらうことにより、一時的な安心を得ることはできるかもしれないが、人に承認され続けなければ不安で仕方ない。そのような精神活動が多くを占める私たちに、雰囲気や価値観の異なるものを受け入れる心の容量は少なく、それが差別的な言動に繋がるのではないだろうか。

神様はすべての人に、誰も代えることのできない個性を与え、どのような人種であれ、大人であれ、子供であれ、無条件に愛されている。あなたが一番愛する者に対して抱く感情以上の大きな愛で、神様はあなたが見下したくなる相手をも愛していらっしゃるのだ。その相手を、神様の愛を乗り越えて差別することはできないし、する必要も無いのだ。

なかなか指導に従わない生徒に対し、時にマイナスな感情を抱きそうになったとしても、このような想いで一人一人と接することが目標だ。神様の前にへりくだる日々の祈り無くしてはできない。この姿勢が、彼らの心に神様の愛を少しでも証しすることとなれば良いのだが。祈り、学び、働きつつ献身。

昨年の夏より千人宣教師として広島三育学院のキャンパスでご奉仕いただきました先生が、この夏をもって母国フィリピンへ帰国されます。英語の聖書研究、ペスパーや礼拝での証、小学生の放課後英語プログラム等、様々な場面で先生の揺るぎない信仰を基に、生徒達と関わっていただきました。先生の今後のご活躍に神様の祝福がありますようお祈りいたします。



校長 田淵 裕